

平成 17 年度の生涯学習フェスティバルまちづくり部会が実施したアンケート調査結果

<行政サービスとして見直しが必要だと思われるもの>

◎ 補助金・報酬金に関する事項

- 1 各種事業の参加賞・記念品・懇親会・交流会補助
- 2 各種団体補助（評価／見直し）
- 3 補助金の用途見直し（経過して現状にそぐわないもの、利用率低下がある）
- 4 各種団体補助の評価又は見直し（多摩市では、市との協働事業は各団体から協働事業の提案をして、それについて評価を行い補助又は助成をしている。）
- 5 敬老祝金
- 6 市議会議員に対する審議会・協議会等の委員報酬
- 7 自治会役員手当の見直し
- 8 苗木の無料配布と生垣作り補助金
- 9 各種補助金制度の見直し（再資源利用、ごみ容器、浄化槽、生垣作り、成人歯科等の廃止・減額、身障者・高齢者向けの増額）
- 10 各種団体への補助実態と評価、見直し
- 11 交際費（税金から支出されているとしたら不要）
- 12 市が何もしないで、お金を出す集まり
- 13 観光協会の 3 団体へのまる投げ補助金
（補助金は市の発展のため、お金を生み出す活動に出すべきだ）
- 14 議員報酬を下げるか、人員の削減
- 15 補助・援助金はどこの何に出しそれは必要だったかまで調べる。
（一律カットではおかしい。）
- 16 自治会への援助金は高い（自治会長費は高すぎ。援助金の中で当番（市報配り、募金集めは無料で良い。）回り持ちなのだから。）
- 17 祭への多額の補助金
- 18 自治会役員への手当
- 19 審議会（外部、内部）市民を巻き込んでいるというポーズだけ費用弁償も必要ない
（特に職員）
- 20 自治会への手当
- 21 各種団体への補助金
- 22 農業団体への補助金も当初の育成のためならば長くても 10 年間で打ち切るべきで補助金でコントロールしようとするのはこれからの時代に合わない。
- 23 自治会区長などへの 1 億円近くの報奨金は協働の趣旨に反している
（広報いるまは市民の情報源であり、配布に謝礼が出るのはおかしい）
- 24 敬老祝金の給付（廃止）
- 25 区長への報償金（廃止）や市民団体への市長交際費（廃止）
- 26 高齢者タクシー券
（変更・もっと利用しやすい形に、必要としている人が利用しやすいように）
- 27 福祉一費用の使い方チェック必要（活動上でのお茶菓子など）
- 28 清掃デー（缶ジュースは体によくない。水かお茶）
- 29 補助金の予算処理のためのムダ（お茶菓子など予算処理が行われているのはムダ）
- 30 介護内容のチェック（自立に対する）

◎ 施策の見直しに関する事項

- 1 老人憩いの施設など施設の見直し（利用率低下？）
- 2 市立保育所の民間への委託又は移譲（市立の役割終焉への対応として）
- 3 公民館や図書館などの館長は行政職員に兼務させ、内部業務については各地域における市民の利活用への変更（館長を必ずしも役所OBに委嘱させる必要性はない。
（但し無料なら理解可能だが）
なお、一般市民が公共公益性を保持できない時代ではない）
- 4 老人憩いの家の活用見直し－現状は利用度が極めて低い
- 5 公共施設の管理（可能な限り民間委託）
- 6 縦割り主義、横並び主義、前例主義をなくし横のつながりを（組織として）
- 7 形ばかりの各審議会（公募なし）形ばかりの市政モニター
（公募しながらほとんどお願いされた人）
- 8 市民相談室の職員は多い。（市民課の手続き案内など）
公民館長の天下り（一般職員が館長になれば良い）
- 9 振興公社の歳入歳出は独立採算にする。
（チケットが売れなくても平気で入れるのはおかしい）
- 10 天下り（公民館長等）
- 11 機構面：重複しているもの見直しスリム化（福祉部と健康福祉センター、都市計画課、
区画整理事業（中止判断も検討すべき））
- 12 他市がやっているから作ろうなどが多い
（博物館、稲荷山公園の狭山市博物館と共同運営・・・狭山入間博物館とすれば）
- 13 市の財政が厳しいのに職員数が多すぎるのでは？
- 14 公民館の利用（一部固定化？）検討
- 15 国勢調査の配布と回収方法の改善（郵便活用、調査項目の再検討）
- 16 市民憲章
- 17 無駄を省き効率化の組織、議員を含め抜本改革して行政サービス低下をしない工夫
を（15部、55課、事務所、事務局は如何なものか）
- 18 形骸化している審議会、運営委員会
- 19 市民に行政サービスが見えてこない状況の中他市との合併等の問題などを考える行政に疑問を感ずる。
- 20 自治会活動で形骸化しているもの、役員のための自治活動になっていないか

◎ 受益者負担に関する事項

- 1 普通ごみ収集回数の縮減（週3回から週2回へ）及び有料化
（ごみ減量化への推進並びに資源有限性の啓蒙啓発）
- 2 基本健康診査の有料化及び市民健康診断料金の値上げ
（生命の源である水さえ有料であるのに、基本健康診査の無料は理解し難い）
- 3 行政サービスも受益者負担の考えを取り入れて有料化の方向を定着させる
（参加者は市民の一部）

◎ 施設運営に関する事項

- 1 循環バスの運用見直し（地域密着・住民利用の見直し）
- 2 市内循環バス（路線と運行の見直しが必要）
- 3 加治丘陵・さとやま学習館の建設
（10億円を越える建設費と毎年の維持管理費が市財政を圧迫）
- 4 土地区画整理事業の抜本の見直し
- 5 市内循環バス（やるなら本数増やして、現状の本数では意味なし）
- 6 「元気な入間」や「生涯学習」など類似の集まりがあります。私が見ても区別がつかえません。整理が必要と思います。

- 7 市や各課から出される計画書やガイドマップ等、厚くカラフルで立派なお知らせが多い（分りやすければよい、単価が高いと思う）
- 8 行政主催行事(イベント)の見直し（市の課が主体の行事で同じ内容のものは集約する）
- 9 市民活動センター（コンセプトを練り直す必要有り）
- 10 図書の移動バス廃止（利用状況が低い）
- 11 ハコ物はもういらぬ
- 12 図書館で古い情報はいらぬ。（情報等は最新の通達等を備置したらどうか）
- 13 図書館に新聞は要らぬと思う

◎ **その他見直しに関する事項**

- 1 財政面：入間市B/S（平成15年度）土地明細中のその他（全体の40%何であるのか）37,620千円内容・売却・処分・有効度チェック
- 2 一方的な家庭教育（押し付け）
- 3 機能していないPTAへの力入れ
- 4 行政サービスについてよく分からない
- 5 防災訓練が毎年同じ様な型どおりの訓練ではなく、防災、危険度に応じた訓練の取入れ
- 6 異なる課の重複した行事（～ウォッチング、～展）
- 7 市が関与した団体が多すぎる
- 8 入間広報は1ヶ月に1度でよい。（どうしても急ぎのケースはチラシ等で対応）
- 9 60歳で歯の検査通知はがきに変更してもよいと思う
- 10 「広報いるま」月一回の配布に変更してもよいのでは
- 11 サービスに無駄というものは無いと考えるが、どのようなサービスを行っているのか認知していない。
- 12 児童・青少年関係施設において、子ども達の人権が尊重されない事業
- 13 まちの活性化の一環として作られた食堂は必要であったか
- 14 入間駅前の自転車整理は西武鉄道でおこなうべきものではないか
- 15 市振興公社の廃止（民間委託へ）

（昨年のアンケートにおいては、上記の見直しが必要と思われるもの以外に、行政サービスとして欲しいものの調査を行いました。）